

◎ **死別の分かちあいの集い：14時～16時**

- ・伴侶：毎月**第一土曜日**（3/2、4/6、5/4、6/1、7/6）
- ・子ども：毎月**第一日曜日**（3/3、4/7、5/5、6/2、7/7）
- ・自死：毎月**最終土曜日**（3/30、4/27、5/25、6/29）

本堂2階にて開催しています。予約も参加費も不要です。遅刻も早退も構いません。辛い寂しいお気持ちを吐露してください。超覚寺門徒でなくても参加できるので、お知り合いの方にも是非ご案内ください。

☆ **浄土真宗基礎講座：毎月最終日曜日 14時～15時**

今後の開催日 ⇒ 3/31、4/28、5/26、6/30

親鸞聖人が記された正信偈の講義や読経の練習をしております。雑談も多いです。初めての方も遠慮せず、どうぞ参加ください。

☆ **書写(写経)の時間：毎月最終日曜日 15時～16時**

上記の学習会の後、1時間ほど書写(写経)の時間を設けています。書写だけの方も、この時間帯に本堂2階までお越しください。参加費は不要ですが、書道の道具や筆ペンは各自ご持参ください。

◇ **つばやき・ぼやき**

- ・大晦日、元旦の法要は初の試みでしたが、年末年始のあわただしい中お参りくださりありがとうございました。多くの方がお参りできるよう、今年も様々な時間帯の法座を設けたいと思います。
- ・ノロやインフルエンザは大丈夫でしたか？ うちの子ども達もやられました…。私は大丈夫でしたが、今は花粉が怖い時期です…。
- ・1月28日から本堂の2階部分の改修工事に入っております。一昨年からの計画が始まり、設計も十数回見直しました。なかなか「劇的!ピフォーアフター」のように進みませんでした。でも工事が始まるとバババツと進みますね。お参りの方にはご不自由をお掛けいたし、申し訳ございませんでした。

発行人:超覚寺住職 釈隆恩(和田隆彦) (*-*)人 i~ 合掌

2013年3月春 超覚寺報 第6号

【八丁堀だより】



真宗大谷派(東本願寺)



林鷺山 憶西院 **超覚寺**

RIN-Oh-ZAN OKU-ZEI-IN CHOH-KAKU-JI
(since 仏暦2002, 西暦1619, 元和5)

〒730-0013 広島県広島市中区八丁堀 5-2
Tel : 082-221-1234 ; 090-9999-3113
Mail : otera@kme.biglobe.ne.jp
Blog : <http://namuamidabutsu.ameblo.jp>

超覚寺 春の法要のお知らせ

慈光のもと、平素は様々にお世話になっておりますこと、ありがたく存じます。

さて、お預かりし積み立てている皆さまからの御浄財(御布施・寺院護持費)をもちまして、本堂参詣席および2階トイレを改装いたしました。ありがとうございました。

ご披露を兼ねて、下記の通り法要・法座を勤修いたしますので、ぜひご参詣くださいますよう、ご案内申し上げます。

<(_ _)>

◎ 2013年春季彼岸会(永代経)法要

3月20日(水・祝) 10時～ 勤行・法話(住職)
11時～ 休憩・喫茶タイム
11時半～ 落語(桂文鹿師)

桂文鹿(かつらぶんろく) 師

○1969(昭和44)年 奈良市生まれ

○真宗大谷派系列の大谷大学文学部卒

○1994(平成6)年・桂文福師に入門。3年間師匠の元での修行期間を終え、1999年からプロボクシング選手との二足のわらじ状態の活動。31歳でボクシングを引退。

◎ 初参式[兼 釈尊降誕会(花まつり)]

4月6日(土) 10時～ 勤行・記念写真

昨年2012年に誕生されたお子さまを対象に初参式が勤まります。まだ受式されていないお子さまも募集します。一緒にお祝いしますので、該当される方は3月中に超覚寺までご一報ください。ささやかですが、記念品と花まつりプレゼントをご用意しております。

◎ 2013年の年回忌に該当する方はご確認ください。

・2012(平成24)年：1周忌 ・2011(平成23)年：3回忌
・2007(平成19)年：7回忌 ・2001(平成13)年：13回忌
・1997(平成9)年：17回忌 ・1989(平成元)年：25回忌
・1981(昭和56)年：33回忌 ・1964(昭和39)年：50回忌
日時が決まりましたらご連絡ください。ご自宅でもお寺でも承ります。該当される方のお名前を境内の墓地通路に掲示しております。

◇ 超覚寺 仏教婦人会 会員募集のお知らせ

活動内容としては以下のことを念頭に置いています。

- ① 法要や法座等に率先してお聴聞ください。
- ② 法要の準備(おとき作り、仏具磨き等)をお手伝いください。

性別は問いますが、年齢は問いません。面倒臭くなく会費も必要ない、お気楽な会にしたいなあと思います。現在のお申込みは7名です。

◎ 続 ペット葬について

先日、ある御門徒さん宅でペットの追悼読経を勤めました。高天原で茶毘に付したので遺骨は持ち帰れませんでした(民間には遺骨を受け取れるペット専門の葬儀社もあります)。また別の方からは、「超覚寺にペット用の合同墓はありますか」と尋ねられました。以前の寺報に載せたように、菩提樹の根元に埋葬する樹木葬を説明しましたが、ご要望は多様です。これからのペット葬について、皆さんからのご意見をお寄せください。

◇ 寺院護持費(墓地管理費)について

寺院護持費のお支払いについては、お墓参りの際に玄関までお越しください。期日も設けておりません。今まで振込みをされていたご遠方の方々は、振込口座が下記に変わりましたのでご注意ください。

【ゆうちょ銀行 15190-55770601】

◇ 12/18~20(水・木・金)の東本願寺奉仕団

今回も東本願寺境内で二泊し、講義・座談・諸殿拝観などで過ごしますが、清掃奉仕がメインになります。今回は親鸞聖人のお墓（大谷祖廟）にも参拝します。総費用は4万円です。参加者募集中ですので、関心のある方はぜひご連絡ください。

↓ 2012年12月のお煤払いの様子

真宗本廟 お煤払い

全国各地から参加

寒さ深まる12月20日、真宗本廟の大掃除である「お煤払い」が行われた。お煤払いは、蓮如上人の時代から500年あまり続くといわれる伝統的な行事であり、毎年この日に行われている。毎年「お煤払い奉仕団」としての参加を呼びかけており、今回も全国各地から52人が参加、18日から事前準備なども行った。

当日は、奉仕団参加者や本山職員など約100人が参加。御影堂内で横一列に並び、割り竹を手に畳を一斉に叩くと、バチバチという大きな音とともに埃が舞い上がり、舞い上がった埃を、大きな団扇を使って外へ扇ぎだした。その後、畳一枚一枚を丁寧に雑巾がけし、清掃を終えた。

最後に、新たに荘厳を整えてお給仕を始める儀式である「御規式」が行われ、大谷輪顯門首が紙帳（御本尊や御真影を埃から守るための囲い）の上から竹の棒で「寿」の字をなぞり、新年を迎える準備が整えられた。

なお、このお煤払いは、例年、御影堂・阿弥陀堂の両堂で行われるが、現在、阿弥陀堂が修復工事のため、2011年に引き続き、今回も御影堂のみでの実施となった。

「私たちは楽な方へと進んでしまいがちですが、こうして苦勞して掃除するとさわやかな気持ちになります。ぜひ若い方もたくさん参加していただきたいですね」と、お煤払いを終えて話した。



☆ 初参式(しょさんしき)

赤ちゃんが生まれて初めてお寺にお参りし受ける儀式を初参式と言います。お宮参りの仏教版とでも言えましょう。浄土真宗門徒の家に子が生まれたことを仏さまに奉告し、この子が仏の子として育ち、これからの人生を仏さまのお慈悲に包まれて生きていこうと念じます。地域によっては「お宝受け」とも言います。仏法というお宝をいただける人として生を受けたことを共に慶ぶ大切な儀式だからです。せっかく人として生まれても仏さまの教えを聞かずに過ごすことは、「宝の山に入って手を空しくして帰ることと同じ(御文)」ということです。生まれた意義と生きる喜びを見つける生き方をしたいものです。

夫婦お二人を縁に新しい「いのち」が誕生し、この子の「いのち」が、あなた方を「この子のお父さん」「この子のお母さん」にしてくれました。その意味では「同い年」です。一緒に「子として」「親として」育ちましょう。【育児＝育自】です。そのために仏さまのみ教えを大切に生活してください。

☆ 育児

子ども・赤ちゃんの誕生を表す言葉が変わりつつあります。昔は、「子どもに恵まれる」「子どもを授かる」という表現でした。しかし今では、「子どもができる」「子どもを作る」という言い方をよく聞きます。誕生という事実には変わりはありませんが、子どものいのちに対する見方に、今と昔では大きな違いがあります。子どもは「できたのか」、「作ったのか」、「授かったのか」、はたまた「やってきたのか」。

私たちは大抵自分中心の思いを離れることができません。子どもが親の思い通りにいけば喜び褒め、逆の場合には怒りや落胆の顔をつい見せてしまいます。あたかも子どもが自分の虚栄心を満足させる道具であるかのように、自分の都合に合うか合わないかで接しているのではないのでしょうか。

また、科学技術が発達した現代では、頑張れば子どもは得られるものだと思います。そして、周りからの「子ども作らないの?」という問いに、どうしても授からない夫婦が自責の念に苦しむようになりました。いのちを授かる授からない「ご縁」に尽きます。だからこそ生まれた子どもは尊いのです。

☆ 仏教用語【 彼岸(ひがん) 】

春分・秋分に行う仏事を彼岸会(ひがんえ)と呼びます。春分と秋分は、太陽が真東から昇り真西に沈むので、沈む太陽に倣い、西のかなたにある極楽浄土に思いをはせたのが彼岸会の始まりで、日本独自の仏事です。この時期は昼の長さや夜の長さが同じなので、仏教の中道の教えを表すともされています。お彼岸には、全国で多くの人々がお寺やお墓にお参りされます。また、この時期にはお寺で永代経法要が務められる地域もあります。こうした仏事は、私たちの父母、祖父母とさかのぼり、代々伝えられてきました。私も小さい頃に祖父母や両親に連れられて、子ども心にそうするものだと思いました。

「彼岸」とは、私たちが生きているこの世界を「此の岸(このきし)【しがん】」というのに対して、「彼の岸(かのきし)【ひがん】」、つまり阿弥陀如来のお浄土を意味します。このお彼岸の仏事は、悩みや苦しみのないお浄土に生まれたいと願わずにはいられない、私たち人間の心の奥底から生まれたのでしょう。

浄土真宗では、亡くなられた方を諸仏と仰いでいます。私たちは亡き人を偲ぶことを通して、亡き人が身をもって示してくださった、生老病死の身に生きているという事実に立ち返らされます。そして生老病死を受け止めることができず、悩み苦しむ煩悩の身を生きていることを教えられます。だからこそ私たちは、亡き人を諸仏と仰ぐのです。浄土真宗の祖師、親鸞聖人は、諸仏を通して仏陀の教えを「念仏＝南無阿弥陀仏」といただかれ、私たちに伝えてくださっています。

お彼岸にお寺やお墓にお参りすることは、決して先祖供養をするためではありません。親鸞聖人は「父母(ぶも)の孝養(きょうよう)のためとて、一返にても念仏もうしたること、いまだそうらわず。」と申されました。お仏壇やお墓にお参りすることは、ご先祖さまのためでなく、自分自身のためであります。墓石にも南無阿弥陀仏と刻まれているように、諸仏と仰ぐ亡き人からの教えを、身をもって聞く場をいただくことなのです。永代経も、仏陀の教え(お経)を我が身に聞き開き、永きにわたって子孫に伝えていくということでしょう。その聞法の場がお寺であり家庭のお仏壇なのです。(東本願寺小冊子より加筆転載)

☆ 落語

その昔、お寺は娯楽の場でもありました。仏教を楽しく聞いてもらうため、面白おかしく話したお坊さんも多くいました。人々は、その話の面白さに惹かれてお寺に参ることも多かったのです。当時は娯楽が少なかったため、お坊さんのお話、いわゆる説法も娯楽の要素を持っていました。それがやがて娯楽の要素を増やして芸能となったのが落語です。

お寺の説法は、面白い話をしていても最後にちゃんと仏教の話で結ばれる。それを仏教では「合法(がっぽう)」といい、それが落語での「オチ」に当たります。落語家が話をする場所を「高座(こうざ)」と呼びますが、昔お寺で説法をする時には、高さ1メートルぐらいの文字通りの高座でお話をしていました。それが落語で話をする場所も高座と呼ぶように受け継がれました。また、お寺で法座がある場合、若手の僧侶がベテランの僧侶の前にお話することを「前座(ぜんざ)」といいました。落語でも、師匠クラスの前座があります。それはこのことから来ています。

古典落語には仏教に関する内容のものが結構あります。それも落語がお寺の説法に由来することを表しています。他の日本の芸能でいえば、「浄瑠璃」「講談」「講釈」「漫談」もお寺の説法から生まれたといわれています。日本の文化のいたるところに仏教の文化が沁み込んでいるということです。そういう意味で、落語を楽しみながら仏教・お寺を感じていただけたらと、『八丁堀寄席』を今後も開催していきたいと思えます。

2011/6/19
東日本大震災死没者
百ヶ日追弔法会 ⇒
復興支援チャリティー寄席

